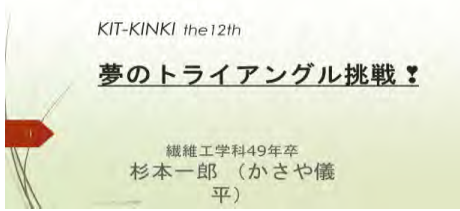


京都工芸繊維大学同窓会近畿支部セミナー講演会

講演テーマ

日程；平成30年12月8日、会場；京都工芸繊維大学工織会館
主催；京都工芸繊維大学同窓会 近畿支部



講師；杉本 一郎、日本茜研究会代表、かさや儀平代表
(昭和49年、繊維学部・繊維工学科卒業)
谷垣 弘明 谷垣商会代表、元アヤベテキスタイル㈱代表取締役
(昭和43年、繊維学部・製糸紡績科卒業)
安土 行博 ㈱イービーアイ 取締役会長
(昭和48年、工芸学部機械工学科卒業)

1、セミナー開催の経緯

我校を卒業された3名の方が日本茜原料の栽培、布、皮等の染色、それらを加工する製造のトライアングルを通じて、事業創造、伝統・文化復刻について着手され、いい進展がみられてきています。一致努力され、極めて珍しいケースと見受けられます。5回シリーズでセミナーを開催され、その完了を待って、近畿支部のセミナーとして12月8日に開催致しました。テニスの松岡修造様がテレビ朝日の番組で、杉本様との対談に東京からこられ、11月22日に収録をされています。今後の予定では、来年2月には東京ビッグサイトでギフトショウ出展。その後、海外でも同様の展示もあり得るようなお話も出てきています。評判が拡がりつつある一番いい時期にセミナー開催となりました。

講師の杉本一郎様、事業に参加されています同窓の谷垣弘明様、安土行博様をご出席です。福岡県から日本茜の復活、開発をされてきた飯塚の活性化委員会の、武藤俊道様、藤井九州男様が出席来られています。茜全般にお詳しいと思います。そして、京都で杉本様の染色の師匠の染色家の山本明様が出席。東京からアメリカ展示事前評価の下見の目的で和 Art Gallery 社 林祥子様

2、講演者及び事業推進者



杉本一郎様



谷垣弘明様



安土行博様



林祥子様

3、見学者



セミナー開催前の部屋の状況 ・ 壁際に35枚のパネルを展示

3、事業を応援頂いています皆様

4、昼食会



武藤 俊道様



山本 旭様



5、展示されましたパネルを下記致します

「日本茜」って何？ ①



日本茜の特徴

- 本州、四国、九州に自生の多年草
- 茎が四角、節から4枚葉が生える
- 茎や葉に細かな棘がある
- 草や枝に引っかけ伸びていく
- 節から根を生やし、種子で増える
- 半日陰の辺りに自生する
- 農家の嫌がる草(茎、葉が引っ掛かる)
- 根や茎に色素を貯める

日本古来の赤い色を取り出すために、植えた茜の苗

「日本茜」って何？ ②



根の特徴

- 根は細くて干切れやすい
- 若い根は、ピンク、オレンジ色
- 2年、3年と栽培が長くなると色濃くなる
- 根が乾くと、赤く、赤黒くなるので「赤根」とも言われる
- アントラキノン配糖体が色素に変化
⇒ 赤色系のブルプリンに
⇒ 黄色系のムンジステンに
- 漢方薬にも使われている。「茜草根」

色素成分を持った根から抽出

茜の歴史 ①

吉野ケ里遺跡で絹布出土



布目順郎氏（工機大名教授）出土品の分析
前田雨城氏らが日本茜と具紫検出（分光蛍光光度計）

古代の茜の記録

- 魏志倭人伝に登場 卑弥呼「絳青縵」
- 聖徳太子の冠位十二階制定
- 正倉院の御物の製地・赤は凡そ日本茜
- 万葉集「あかねさす紫野行き標野行き」
- 延喜式に記載：帛1匹一浅緋染一赤根 25斤（乾燥根で15kg）



茜の歴史 ②

国宝『赤糸絨鎧』（御嶽社）



明治期に化学染料で改修されたが
化学染料部分が色褪せている

日本惣船印に『日の丸』



時は黒船来航後、島津斉彬公らが進言し、福岡藩・筑前西染めの技法で染める

日本茜は正倉院御物の復元などに必要なものです。有名な、紅花とか蘇芳（すほう）はその後の時代に使用されたものでした。奈良時代、それ以前の染色の赤色は日本茜で染められている古くは吉野ケ里遺跡で出土した絹の端布に日本茜の色素が使われています

魏志倭人伝にこうしたものが送られたと記録があり、これが紅すなわち赤のところが日本茜で染まっている。

上記の御嶽社の鎧（よろい）で今は国宝です。白いところは明治時代に出来たところの化学染料が、劣化して色が落ちたところですが、赤い色のところは日本茜で、色落ちもなくすごいと言えます。

栽培拡大と染めの深耕

栽培拡大

- 葉荷コンテナで現在300箱...2018
- 挿し芽手法確立2,000株...2016
- 挿し芽増産10,000株以上...2017~
- 美山園場苗植え始める...2016~
- 美山・福知山(谷垣農家)に苗植え拡大...2017

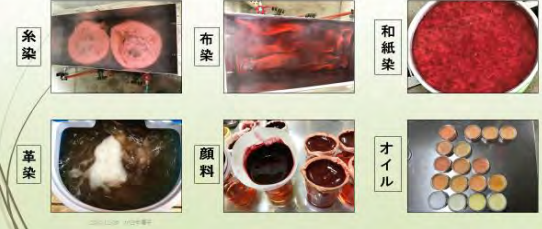


染めの技術深耕

- 綿にこだわり染色スタート...2015
- ジーンズ制作（布染め）...2016
- 毛糸で襪・赤・黄が染まる...2016
- 不可解多く分析始まる...2016



染め方いろいろ



挿木で栽培した茜はうまくでき、染色テストもできいろんな染め方もできてきた。これらを加工した高付加価値商品を試作中

ニーズは有る！

ターゲットは女性

- 日本茜を欲しがる染色家や愛好家
- 「茜」と女性の名に多い
- 女性は赤い下着を欲しが
- 歴史、文化性が超一流
- <Japanred>と言える所以
- 何処にも売っていない
- 何処にも栽培していない
- 日本茜は、女性が必集がる幻の存在



- 皇后さま
- ・小石丸
- 天皇さま
- ・日本茜
- ・皇居に自生
- 正倉院
- ・御物復元
- ・尾形充彦氏
- ・川島織物

軽工業社とのお付き合い

Made in TADAOKA 100%

- 糸×染め・布×染め・革×染め
- 染め×織り・染め×編み
- 染め×各種加工（繊維以外も有る）
- 工業社は、新商品開発悩んでる
- 工業社が、日本茜の価値を認める
- 工業と共同開発の始まり

課題

- 手動の大量は 電動の極少量
- ネック工程=総揚げ、ワインダー
- 品質問題 = 異常発生



時代的に言うとか黒船が来航して間もなく、日本は鎖国していたのでそれまで日本の船は日本のことを記す（しるす）必要はなかったのです。黒船が来た時期には、海外のいろんな国の船が日本近海に来ています。これらの船にその国の印を付けています。その当時徳川時代に、島津斉彬（なりあきら）様が行敬の時に、舟に印をしないといけないとのことで「日の丸」を提案されました。なかなか使える赤がなくて、九州福岡で茜染をされている人がおられ、その方の技術で日の丸を作られました。これが元で今日の日の丸になっていったとことです。日の丸の赤は元々日本茜で染められていますとの歴史があります。展示している中に日の丸の額があります。これは昭和54年頃に福岡県飯塚の方がもう一度作ろうとの事で復元されました。復元されたものがその当時の総理大臣の小泉様の方へ贈呈されているのです。その時に一緒に造ったのが展示しています額です。見て頂いたらわかりますが、今の日の丸は全て白い布地に赤い色をプリントしているプリント染です。元々は白い布地に円形を切って、赤く染めた布地を円形に切って縫い付けているので、今の旗の作り方とは違っています。



「繋がる」の力

未開の地が開拓できる

- 「工芸」では事業魅力が小さい
- 世間への影響力が弱い
- 単独では規模が小さすぎる
- 工芸と工業の連携
- 課題は、数量・ネック工程
- しかし、競争相手は無い！
- 作るモノが世に無い商品である

新たな商品

- 茜色のオーガニック繊維製品
- ジーンズ・セーター・ベビー毛布
- 茜色の皮革製品
- 婦人靴・靴・財布
- 茜色の和紙製品
- 照明器具・紙製品
- 茜色のオイル製品
- ハンドクリーム・リップクリーム

日本茜染はテキスタイルだけでなく、牛革や、又ハンドクリームや、リップクリームに茜を載せたりとかしています。それは何故かと言うと、漢方薬に、婦人病に効くとかで使われており、それから言ってハンドクリームにも使用とのことです。和紙に色付けをといったことも可能と言って、そういう展開も今やっております。いろんな商品で追いかけていけば事業は拡大し、茜の畑はどんどん要るのです。日本茜の栽培は高付加価値の農作物としてやっていける可能性があります。それをお米の収益に対して3倍とか4倍とかの収益を見込める可能性があるのです。これがうまくいけば、農家さんも代をつないで農業をやっている可能性が出てくるのです。なんとかそういう需要を創り、売っていくことによって、農業も、染色工芸も、工業もより活性化される流れができるのではないかと。

日本茜は単なる多年草の草です。春芽が出て冬になったら枯れる。作業の際に体に引っ掛かるいやな草なのです。しかし、これを10月24日に大阪府忠岡町が茜を地域産業資源農産物の一つとして登録されました。京都府福知山市においても話が進んでいます単なる草が今は農作物という形に変わっているのです。この農業、染めの工芸、そして軽工業、この三つを連携させて事業が成り立っていけば、日本茜の文化をもう1回作っていただけるということです。代替わりで事業を継続出来たら文化の復刻です。

この3年物の茜は1株で70g位、うまくできたら100g位にはなります。ジーンズ1本染めるのに1kgから1.5kg、田んぼは3反で3年に1回収穫するのですけれど農家さんの収益を最低でも100万円にしたいと思っている。それぐらいの需要は作れると想定している。

ちなみに米では3反で15万円位あるかないかであり、茜は高付加価値が予想されます。しかし、収益はいいが手間はかかります、茜堀りとか機械化などはい必要です。又1年間に100から150本売れば栽培地は3反必要となります。ちなみに米栽培では3反で15万円であるかないかですが、この茜栽培では、収益を最低100万円にはしたいと思っています。又、それくらいの需要は作れると想定しています。まだまだ省力化の課題はありますが.....

今年になってから、市場でかなりにぎやかになってきました。
6月に雑誌七雄に取り上げられ、京都新聞、読売新聞、南丹日々新聞にも取り上げられました。それと丁度サミットの一番忙しい準備の日にテレビ朝日がテレビの録画撮りをされました。



放映日 : 12月30日
テレビ局 : テレビ朝日 6チャンネル
番組名 : サンデーLIVE (5時50分~8時30分)
コーナー : TOKYO 応援宣言
(6時30分~7時00頃予想)
松岡修造氏の番組みの“できる宣言”コーナー に出演されます

松岡修造さんがオリンピックの応援で一言があるのですけれど、こういうパネルに書かれた宣誓文を言われました。「**世界の人の心に茜の花をさかせよう**」ここにあるのが茜、茜を顔料にして絵具にして書いてくれたものです。松岡さんにこのたびの商品を見せましたらジーンズはたちまちほしい。私のサイズにピッタリと言われ面白い掛け合いで収録をさせて頂きましたとのことでした。

今後の予定は上記との説明がありました。

2020 事業発進・・・文化へ

- 2017 広大に栽培開始
- 2019春 東京ギフトショー出展
- 2019秋 目標：欧州展示会出展
- 2019末 赤根収穫し生産開始
- 2020春 Japanred® 販売開始
- 東京オリンピック『日の丸』掲げる
- 大阪万国博覧会『日の丸』掲げる
- 2030頃 代替りして事業存続
即ち、日本茜の文化復刻となる

Japanred
世界の人の心に
茜の花を咲かせます!



当初からの目標は2020年のオリンピックの際に花火をあげ、事業を発信させていく、それが将来的に文化をとって行けばとの説明でした。

下記の紹介がありました

『日本茜の文化復刻』の夢を共有（購入）しませんか！

- * 1口10万円。何口でも歓迎します。
- * 四季報（年4回）で、文化復刻に向かったの進展々々をお伝えします。
- * 適時、日本茜園場や染色工場の視察会を行います。
- * 日本茜サミット等のイベント案内を致します。
- * 2021以降に、気持ちの返礼（期待せずにお待ちください。）

今回の事業化へ参加頂いておりますご出席者を紹介頂きました。

お客様のご紹介

- 九州からのお客様
 - ・『日の丸』のふるさと飯塚市内野地区の活性化に！
(一社)内野地区活性化協議会より
武藤 俊道 さま 藤井 九州男 さま
- 日本茜を支援いただいているお客様
 - ・障害の子供達に自活の技能を付けさせる挑戦
梅染友禪の第一人者 山本 晃 さま
- 東京からインタビューに来ていただいたお客様
 - ・ひょっとしたら、日本茜がニューヨークに！
和Art Gallery 林 祥子 さま

(注) 掲載資料、写真は茜研究会様から許可を頂いております。コピー、流用、引用、転記は禁止です。